

●2026 年 6 月 3 日

■AIブームと何か——レント資本主義の新段階として考える

最近、ビッグテック企業や AI 関連企業の好調ぶりを伝える報道が相次いでいます。

半導体大手の業績は過去最高水準に達し、データセンター建設計画も世界各地で発表されています。AI 関連企業の株価は上昇を続け、一部企業の時価総額は中規模国家の予算にも匹敵する規模にまで膨れ上がっています。

こうした状況を見ると、まるで新たな産業革命が始まったかのような印象を受けます。

しかし、本当にそうなのでしょうか。

私は、現在の AI ブームを理解するためには、「技術革新」「金融市場」「レント資本」という三つの視点を区別して考える必要があると思います。

▼AI ブームと株価上昇は同じではない

まず確認しておかなければならないのは、AI 関連企業の株価上昇と、AI 産業そのものの発展は同じではないということです。

株価とは企業の現在の価値を示すものではありません。それは将来得られると期待される収益を先取りして評価した価格です。したがって株価は、現実の経済状況とは別に大きく上昇すれば急落もします。

2000 年前後の IT バブルもそうでした。インターネットという技術そのものはその後も発展しましたが、多くの企業は消滅し、株価は暴落しました。同じことは住宅バブルや EV 関連株にも見られました。

現在の AI 関連株についても、将来の収益期待が過度に織り込まれている可能性は否定できません。株価の上昇それ自体をもって、AI 産業の将来性が証明されたと考えるわけにいかないことはいうまでもありません。

▼AI は単なるバブルではない

しかし一方で、現在の AI ブームを単なる投機バブルとして片付けることもできません。実際に巨大な需要が生まれているからです。

半導体需要は急増しています。クラウドサービスへの投資も続いています。データセンター建設計画も世界中で進められています。AI はすでに、ソフトウェア開発、翻訳、画像解析、医療診断、創薬、物流管理などの分野に浸透し始めています。

技術そのものが現実の生産活動に影響を及ぼし始めていることは間違いありません。

問題は別のところにあります。それは、これほど巨額の投資に見合うだけの収益が本当に生み出されるのかという点です。

▼AI 最大の問題は収益化である

現在の AI 産業は莫大な設備投資を必要としています。高性能 GPU の開発と製造。

巨大なデータセンター。膨大な電力供給設備。これらには天文学的な資金が投入されています。

ところが、AI サービスから得られる収益はまだ十分とは言えません。多くの利用者は月額数千円程度しか支払っていません。企業向けサービスも増えていますが、投下された資本を回収できるほどの収益モデルが確立されたとは言い難い状況です。

だからこそ市場では、「AI は未来を変える」という期待と、「AI は儲からない」という懐疑論が同時に存在しています。

技術革新そのものと収益化は別問題なのです。

▼AI 時代の勝者は誰か、AI は資本主義の矛盾も深める

さらに見落としてはならない問題があります。AI は労働力を節約する技術です。個別企業から見れば合理的です。

しかし社会全体から見れば必ずしもそうではありません。AI によって労働者が不要になれば賃金所得は減少します。所得が減れば消費も減ります。企業は商品が売れなくなります。

またAIの生産における役割を見た場合ですが、AI への投資は巨大な設備投資を必要とします。これは資本主義における機械化の極端な発展形態とも言えます。マルクスが指摘したように、資本主義は競争の中で機械化を進めながら、同時に自らの利潤率を圧迫する傾向も持っています。

AI は企業に利益をもたらす一方で、資本主義全体の矛盾をさらに深める可能性もあるのです。

▼AI ブームの先にあるもの

私は今後の展開を次のように考えています。

まず現在の投資ブームが続きます。半導体、クラウド、データセンターへの巨額投資が続くでしょう。

次に淘汰が始まります。多くの AI 企業が姿を消し、少数の巨大企業に集中が進みます。

その後、AI は電力や通信網と同じような社会インフラになっていくでしょう。

そして最後に、AI インフラを支配する企業が継続的な利用料を徴収する社会が形成される可能性があります。

つまり、AIは資本主義の新たな成長エンジンというよりも、プラットフォーム資本やレント資本の支配をさらに強化する方向で発展する可能性が高いのです。

▼現代資本主義の支配者は誰なのか

現在のAIブームを理解するためには、株価や企業価値の上昇だけを見るのでは不十分です。本当に問われるべきなのは、AIがどれだけ社会の生産性を高めるのか。その成果を誰が獲得するのかです。

AIは競争を促進するのか、それとも独占を強化するのか。そしてAIによって生まれる利益は、どこまでが生産活動から生まれるのか、そしてレント収入として吸い上げられていくか、という問題です。

現時点では、AIは資本主義の停滞を根本から克服する新しい発展様式というよりも、むしろ金融化とレント化を深めてきた現代資本主義が、その支配をさらに強化するための新たな手段として機能しているように見えます。とりわけ、資本主義の下での資本のレント形態としての発展ないし延命が、どこまで可能なのかを見ていく必要があります。

だからこそ私たちは、AI技術そのもののだけでなく、その技術を誰が所有し、誰が利益を得るのかという政治経済学的な問題にも目を向けなければならないのです。

このことは、現代資本主義の下で労働者が置かれている状況、搾取や収奪のいっそうの強化、世界の分裂と対立の激化、軍拡や政治反動の強化の背景を見ていく上で不可欠の課題です。